修学旅行新聞

発行所 財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人 前田 寛
〒101 東京都千代田区
神田錦町1-17-1（NK第一ビル）☎03（5259）0631
振替 00160－7－36337

★ われらの信条
われわれは教育を熱愛し 友愛と信義を基盤とする同志的組織のもとに団結する
★ われわれは全修協創設の精神にのっとり 公益法人として 児童生徒の幸福のために挺身する
★ われわれは修学旅行の改善向上に邁進し 我が国の教育振興に寄与する

—建都1200年を記念し—

第9回 全修協 修学旅行セミナー

「修学旅行で学ぶ」テーマに
9月27日に京都で開催

財団法人全国修学旅行研究協会（山本種一理事長）は、第九回全修協修学旅行セミナーを、京都市アバンティ九階ホールで、九月二十七日に開催、近畿地区各府県をはじめ全国各地から学校関係者等三百名が参加した。

このセミナーは、毎年秋に開催しているが、今年は平安建都千二百年を記念して、京都市で開催されることになったものである。文部省をはじめ、近畿各府県教育委員会、開催地の京都市教育委員会、平安建都千二百年記念協会、京都府、京都市の後援、関東・東海・近畿三地区中学校修学旅行連合委員会の協賛のもとに開催された。

「修学旅行で学ぶ」をテーマに、十三時開会、主催者あいさつ、来賓祝辞、祝電披露の後、文部省初等中等局教科調査官渡部邦雄氏の講演「修学旅行と地域文化」、基調提案と研究協議、

あいさつする山本理事長

武庫川女子大学教授森谷尅久氏の記念講演「歴史都市の修学旅行」が行われ、主催者側のあいさつで十六時半過ぎ、盛会のうちに閉会した。

基調提案（概要）財全修協修学旅行部長 井桁 孝

テーマ「修学旅行で学ぶ」

一、教育改革のキーワード
①「個性」と「主体性」
・自己確立と自己実現
②集団の中で個を生かし磨く

二、修学旅行とは
①修学と旅行
「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに（修学の部分）、集団生活のあり方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと（旅行の部分）。」
②中学校生活をしめくくる一つの節目としての学校行事・生徒が望む最大の関心事
③アイデンティティーの確立

三、修学旅行で学ぶ
①事前学習で学ぶ
※一人一人が喜びと感動のある旅づくり
・旅の楽しさ（本音）
・旅の面白さ（本音）
未知なるものへの挑戦とあこがれ
・課題設定（建前）
※集団の中での個の在り方、生かし方（事前・旅行中・事後）
※主体性（個）の尊重と責任
※教師は黒子
②旅行中の活動で学ぶ
※師弟同行（平素と異なる生活環境にあって教師と生徒が共に学ぶ）
・同宿同飯→人間のきずな（信頼、友情、感謝）
※新しい自己発見
・仲間から・自然から
・文化から・社会から
→温かい心、豊かな心
・徳育から・集団生活から・体験から・課題の解決から
③事後活動で学ぶ
※振り返ってみる
・成功感、成就感、連帯感、再訪への期待感
・後輩への贈物
・新しい文化の創造
・自校文化・地域文化

四、人生の旅に生かす
①生涯学習
※人間は一生学び続ける（旅する）存在
②子孫へ残す物への自覚
※文化財（保護、継承）
※自然（愛護、共存）
※日本（人）の心（わび、さび、人や自然を愛する心の優しさ、温かさ、自由・平和を愛する心）

（講演要旨は次号に掲載）

第11回全国修学旅行研究大会 10月28日宇都宮で
主催 財全国修学旅行研究協会、関東地区公立中学校修学旅行委員会
後援 文部省ほか
日時 10月28日（金）13時
会場 プラザイン・くろかみ 宇都宮市桜四一一一九
テーマ 主体的に活動し自ら学ぶ修学旅行
発表 ①栃木県市貝町立市貝中学校田上富男教諭②宇都宮市立豊郷中学校古田真隆教諭
講演 文部省初中局中学校課大槻達也課長補佐
連絡先 財全修協本部☎03・5259・0631

関西空港から北海道へ空の旅
（成徳学園高等学校の機内風景 2面に作文）

――主張――
同窓会の話題に思う

広報委員 北條 直樹

この夏、数え子たちの同窓会が続けてあり、それぞれの年代ごとに話の花が咲いた。

四十代、五十代ともなれば、さすがに仕事や子供のことも話題に上ったが、共通の話題としてはやはり中学校時代の思い出が多く、中でも修学旅行の話題が中心となった。修学旅行は「生涯の楽しい思い出」と言われるが、卒業後三十年以上も経過して、なおそれが話題の中心となることから考えても、今更ながら、修学旅行の学校教育に占める比重の大きさを思わざるを得ない。そしてその取り組みの大切さを改めて痛感した。

さて、同窓会における修学旅行の話題で注目すべきは、第一にその見聞内容が中心であったということである。「箱根で突然富士山が見えたときの感動は今も忘れられない」「鎌倉の大仏は印象的。先生から聞いた与謝野晶子の歌を未だに覚えている」「国会議事堂の見学がよかった。選挙の度に思い出す」等々。

修学旅行は在学中にただ一回、同一年代の児童生徒が寝食を共にして行う旅行的行事であり、教師と生徒、生徒相互のふれあいを深める絶好の機会である。枕投げで代表される単なる開放感ではなく、同じ年代の目で、同じ自然や文化を見聞したり体験することによって、その共感を通じて、心の交流が行われるものである。

第二に、その地を再び訪れたかどうかは別にして、「もう一度行って見たい」という思いは誰もが持っているということである。箱根の風物に魅せられて、その後数回訪れ、杉並木を歩いたり、登山鉄道のスイッチバックを楽しんだりしたという人もいる。成人してからも、旅が生活の一部になり、よきにつけ悪しきにつけ、年に何回か旅をしているという者もある。

修学旅行は一度きりだが、大人になって追体験したり、写真などで追憶したりすることによって、若い時代の感動を増幅し、それを自分の人生に何らかの意味をもたせているのではないだろうか。修学旅行でいう「生涯の楽しい思い出」は決してふわついたものではなく、もっと人生の中身にかかわる内容を内蔵しているのである。

第三に、旅館でいつまでも騒いでいて、他の泊り客の顰蹙（ひんしゅく）をかったことが忘れられないという者もあった。旅館は自分だけのものではないことが今ごろになってよくわかったと同調する声もある。

最近、修学旅行で一校一館がよく問題になるが、この話からすれば、他の学校や一般宿泊客と同宿することも、教育的に見てもっと考えてよいのではないかと思われる。

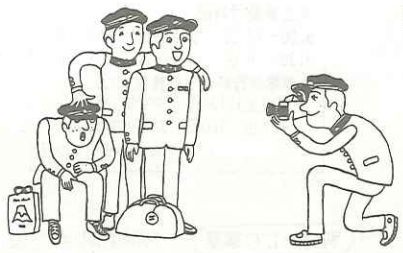
生徒たちを引率したことは多いが、私自身の修学旅行となると、小学校の伊勢旅行一回きりである。騒いで先生に叱られたこともあったが、暗いうちに起きて、友達とともに二見の夫婦岩に昇る朝日を見たときのことは終生忘れることができない。今年没後五十年になるロマン・ロランに「明けてくる新しい日に対して敬虔（けん）な心を持て」という言葉がある。畏敬の念というか、明けてくる日々への希望というか、そのときの強い感動は筆舌に尽くし難いものがある。それを人生のいろいろな場面で思い起こし、何かにつけて力づけられているのも事実だ。

修学旅行の中身をどのように充実させるか、今更のように人間形成へのかかわりの大きさを痛感した実り多い同窓会であった。

風紋

十月十日は体育の日。昭和三十九年に東京オリンピックの開会式が行われた日である▼あれからもう三十年が経過した。この直前に開通した東京モノレールや東海道新幹線も三十周年を迎えたが、当時の状況を思い出すと、まさに今昔の感を抱かずにはいられない▼日本列島の改造が進み、技術革新、経済発展は目を見張るものがある。当時、都会を離れると道路は未舗装、鉄道はSL、電話は待時通話だった。一ドルが百円を切るなどとは想像もできず、新幹線も飛行機同様修学旅行とは無縁のものかと思っていた▼それが昭和四十年代に入ると、修学旅行生も新幹線利用が増え、四十五年の大阪万博終了後は、専用列車も在来線から新幹線へ移行した。その後岡山、博多へと山陽新幹線が延び、更に東北・上越新幹線も開通して、今は長野オリンピックへ向けて、北陸新幹線の工事が進んでいる▼夜行列車の利用を解消したのもありがたいが、何よりも新幹線の三十年間乗客死亡事故ゼロという安全性は、かけがえのないものである▼六十年前の昭和九年、丹那トンネルの開通時に、東京～大阪間は特急で八時間を要した。それから三十年、開業当時の「ひかり」が四時間、更に三十年後、「のぞみ」は二時間半で走る▼十月十四日は鉄道の日。明治五年、新橋～横浜間に我が国最初の鉄道が開業した日だ。修学旅行の改善向上に貢献した鉄道に改めて感謝したい。（中）

信頼される旅づくり
心にあざやかな想い出を
ツーリストの修学旅行。
近畿日本ツーリスト
運輸大臣登録一般旅行業第20号 （社）日本旅行業協会会員

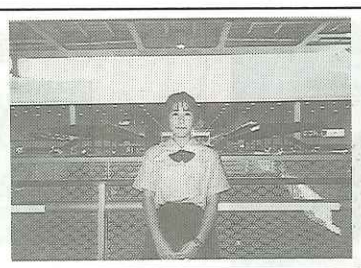
楽しい修学旅行を、
より安心
より快適に

TOKIO MARINE
「学校旅行総合保険」をおすすめします。
東京海上火災保険株式会社
本店 東京都千代田区丸の内1-2-1 ☎03-3212-6211（代表）

――修学旅行生の作文――
〈心に残る修学旅行〉

関西空港から北海道へ

成徳学園高等学校
織田　さなえ

今回の修学旅行は、二学期があけるとすぐにあわただしく出かけたので、最初はあまり旅をするんだという自覚がありませんでしたが、新しい空港や、北海道の大地が印象深い修学旅行の思い出を残してくれました。


関西空港駅前にて、筆者

北海道への交通手段は、開港したばかりの関西国際空港からの飛行機でした。初めて飛行機に乗る私としては、空港へ足を踏み入れることさえも初めてなわけですが、旅客ターミナルビルへ入った瞬間何か圧倒されるものがありました。見学に来た大勢の人々、警備のための警察官、飛行機で到着したばかりの人々が入り乱れ、そのうえ私たちのような団体の修学旅行生がいても、全く狭いと感じさせないその広大さは、ここが埋め立てて作られた島だとはとても信じられないくらいでした。

関西国際空港を利用できたということの他に、北海道の修学旅行の中でも特に良かったと思える場所は、阿寒湖と摩周湖の二つの湖と小清水原生花園、そして自由行動をした札幌です。阿寒湖では遊覧船に乗ってぐるりと遊覧したのですが、途中で降りた所にあった大小のマリモがすごいと思いました。直径約四十七センチという大きなマリモはできあがるまで約八百年かかるという説明を聞いて、よく壊れずにここまで大きくなったものだと感心しました。

「霧の摩周湖」と呼ばれる摩周湖は、訪れたときに晴れていれば結婚が三年遅れるという迷信があるそうです。私たちが訪れた時には幸か不幸か深い霧がたちこめ、その上雨まで降ってしまいましたが、野生のリスを間近で見ることができて感動しました。小清水原生花園に行った時は快晴で、オホーツク海がとても美しく、波打ち際まで行き靴が海水で濡れてしまう人もいたほどです。札幌の自由行動は、行ってみたいところがたくさんありすぎて三時間弱では全く時間が足りませんでした。旧道庁や北海道大学構内の古くからの建物は、今のビルや学校とは違って風格があり魅了されてしまいました。

修学旅行としての北海道は、四泊五日という限られた期間ですが、様々な思い出を作る旅となりました。ぜひもう一度、今度はゆっくりと訪れてみたいと思います。

◇成徳学園高旅行行程◇
9／10　神戸＝関西空港―新千歳＝日勝峠＝十勝川温泉泊
9／11　十勝川＝阿寒湖＝摩周湖＝ウトロ泊
9／12　ウトロ＝原生花園＝網走＝層雲峡温泉泊
9／13　層雲峡＝砂川＝札幌市内＝札幌泊
9／14　札幌＝ハイジ牧場＝新千歳＝関空＝神戸

長野県への修学旅行
スキーが増加、千校超す
平成5年度

長野県商工部観光課は、平成五年度の修学旅行実態調査結果を発表した。

表1・修学旅行年次別入込状況では、昭和六十二年から平成元年を頂点に、平成二年、三年は減少したが、四年には増加し、五年には再び減少している。スキー修学旅行も平成元年を頂点に、平成二年、三年は減少したが、四年、五年と増加を続け、修学旅行全体のうちの七割を超えている。

平成五年度修学旅行の入込宿泊延べ人数は百十五万二千人で、前年度に比べ四万六千人、3・9%の減、そのうち73・4%を占めるスキー修学旅行の入込は今回初めて千校を超え、宿泊延べ人数は八十四万五千人と、前年に比べ一万二千人、1・4%の増となった。

表2・平成五年度の月別入込状況では、中学校が五～七月に58・0%及び一～三月に29・5%、高校が一～三月に81・4%及び五～七月に10・9%で、各種体験活動とスキーの二つのシーズンに集中しており、十一月は極端に少ない。

都道府県別の入込ベスト5は、大阪、兵庫、愛知、東京、福岡の順で、全体の52・3%を占める。

次に、宿泊地区別入込状況（延べ数）では、志賀高原五十七万二千人（49・7%）、蓼科・白樺湖・車山十五万九千人（13・8%）、菅平高原六万一千人（5・3%）に集中、以下白樺高原、白馬・八方がこれに続く。

宿泊日数では、スキーを除く修学旅行延べ人数三十万七千人の実人数は十七万九千人、平均泊数は1・71であるが、スキー修学旅行延べ八十四万六千人の実人数は二十八万五千人、平均泊数は2・97となっている。

表1．修学旅行年次別入込状況

年次別	修学旅行総計		うちスキー	
	実校数	宿泊延べ人数	実校数	宿泊延べ人数
昭和60年	1,759	1,159,155	646	592,441
〃 61年	1,713	1,200,926	670	651,539
〃 62年	1,871	1,296,888	811	746,884
〃 63年	1,728	1,298,634	862	816,604
平成元年	1,753	1,308,401	910	851,686
〃 2年	1,573	1,194,571	838	803,867
〃 3年	1,597	1,131,291	818	753,643
〃 4年	1,689	1,198,572	954	833,846
〃 5年	1,705	1,152,087	1,026	845,605

表2．平成5年度　修学旅行　月別入込状況

月別	中学校		高等学校	
	延べ人数	%	延べ人数	%
4月	13,919	4.9	10,642	1.2
5月	67,754	23.8	26,433	3.1
6年	50,878	17.9	13,590	1.6
7月	46,364	16.3	53,366	6.2
8月	6,555	2.3	5,522	0.6
9月	2,058	0.7	5,200	0.6
10月	2,564	0.9	14,067	1.6
11月	644	0.2	0	―
12月	9,977	3.5	32,302	3.7
1月	35,612	12.5	356,759	41.1
2月	36,143	12.7	313,152	36.1
3月	12,232	4.3	36,354	4.2
合計	284,700	100.0	867,387	100.0

沖縄県への修学旅行
平成5年は更に増加

沖縄県観光文化局観光振興課は、平成五年修学旅行入込状況調査の結果を発表した。

表1・修学旅行年次別入込状況では、校数・人数ともに、毎年着実に増加している。平成五年の入込校数は六百五十校、人数は十一万人で、前年に比べ四十四校（7・3%）五千三百人（5・1%）それぞれ増加し、学校種別では高校が八万八千四百人で最も多く、80・1%を占めている。

表2・平成五年の月別入込状況では、修学旅行の実施時期として、小・中学校は五月に集中し、高校は十月～十二月に多い。月別の合計では、十一月が二万三千人（21・2%）で最も多く、次いで十二月、十月、五月となっている。逆に少ない月は、九月の一千八百人（1・6%）、次いで四月、八月、七月となっている。

表3・平成五年の都道府県別入込状況では、東京都が二万人（29・9%）で最も多い。地域別にみると関東、近畿、九州の順。

次に、平成五年の宿泊地別入込状況では、那覇市の五百八十一校が最も多く、入込校数六百五十校の89%を占め、次いで恩納村、本部町、座間味村の順となる。

滞在日数別校数は、三泊四日が三百七十六校（57・8%）で最も多く、次いで二泊三日が百七十校、四泊五日が六十九校である。

表1．修学旅行年次別入込状況

年次別	総計		小学校		中学校		高等学校		その他大学等	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
昭和60年	283	49,458	12	544	8	626	128	33,320	135	14,968
〃 61年	291	47,395	2	120	12	2,273	129	28,954	148	16,048
〃 62年	347	62,317	4	79	5	270	188	46,890	150	15,078
〃 63年	421	72,330	2	35	28	2,610	209	51,292	182	18,393
平成元年	474	75,456	8	352	39	3,956	223	49,886	204	21,262
〃 2年	503	85,293	8	254	41	4,958	295	65,677	159	14,404
〃 3年	535	98,367	0	0	47	5,791	294	71,325	194	21,251
〃 4年	606	104,976	4	445	39	4,206	372	79,478	191	20,847
〃 5年	650	110,279	9	493	57	5,883	421	88,364	163	15,539

表2．平成5年　修学旅行　月別入込状況

月別	総計		小学校		中学校		高等学校		その他大学等	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
1月	26	5,749	0	0	3	201	18	4,743	5	805
2月	31	6,503	0	0	1	52	26	6,279	4	172
3月	58	9,477	0	0	5	500	36	7,842	17	1,135
4月	29	3,244	1	40	5	370	11	2,153	12	681
5月	69	9,760	7	413	16	2,097	28	5,520	18	1,730
6月	47	6,325	1	40	3	285	29	4,991	14	1,009
7月	36	4,761	0	0	3	260	13	2,020	20	2,481
8月	25	3,506	0	0	0	0	2	211	23	3,295
9月	25	1,768	0	0	1	137	11	1,067	13	564
10月	104	17,881	0	0	10	906	77	15,838	17	1,137
11月	117	23,348	0	0	5	516	101	22,055	11	777
12月	83	17,957	0	0	5	559	69	15,645	9	1,753

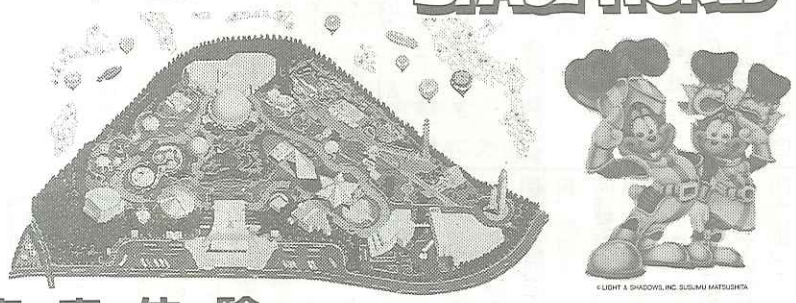
表3．平成5年　都道府県別　入込状況ベスト10

	都道府県別	校数	入込人数		都道府県名	校数	入込人数
1	東京	92	20,231	6	広島	42	5,071
2	大阪	70	14,351	7	鹿児島	43	5,062
3	福岡	37	6,289	8	愛知	34	4,737
4	神奈川	27	5,396	9	北海道	26	4,564
5	京都	25	5,290	10	埼玉	21	4,092

全修協人事
栃木県支部長に大野氏

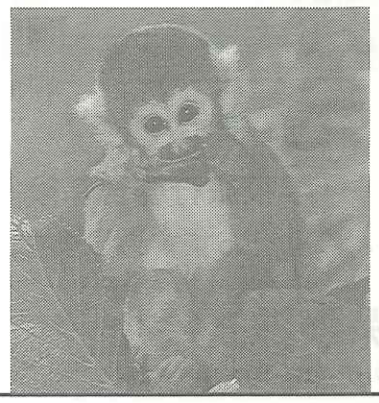
財団法人全国修学旅行研究協会の栃木県支部長に、十月一日付で大野信一氏が就任した。

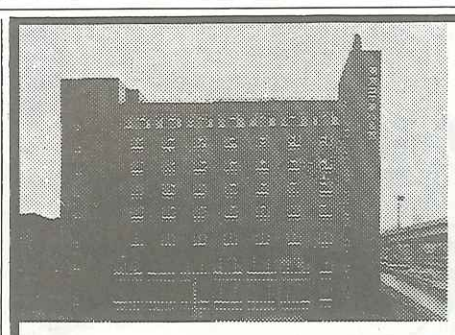
東京教育大学文学部卒。栃木県立高等学校教諭、教頭、校長、県教育次長、県高等学校長会長等を歴任、現在栃木県連合教育会長。

© SPACE WORLD, INC.
地球に生まれた宇宙。SPACE WORLD

宇・宙・体・験
〈スペースワールドは21世紀の校外学習環境〉
(株)スペースワールド™
インフォメーションセンター TEL093-672-3600　予約センター 0120-340020
本社　〒805 北九州市八幡東区枝光900-1

KANSAI KISEN
大阪・神戸 直行便 別府 さんふらわあ 12,000トン

大阪南港 18.40発 9.00着 ⇄ 神戸中突堤 20.10発 6.45着 ⇄ 別府 7.40着 19.10発
信頼の船旅
関西汽船
船客営業部販売課 大阪市北区梅田1-1 ☎(06) 344-7031
東京支店 東京都中央区八重洲1-9-9 ☎(03)3274-4273

「動物たちのあったかラ・ン・ド」

●営業受付時間
9:00～17:00（3月16日～11月15日）
9:30～16:00（11月16日～3月15日）
●修学旅行料金（消費税含む）
高校生1,100円　中学生　800円
小学生　700円　ガイドラジオ
バス1台につき1,030円
別府あじむ草原　博物館相当施設
アフリカンサファリ
〒872-07 大分県宇佐郡安心院町大字南畑
☎ (0978) 48-2331(代)
FAX (0978) 48-2330


東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。
東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。
ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL(03)3585―1046(代表)
東京 コマ旅行会館